

【ファシリテーターの活動状況】

第3回地域包括ケア専門職“絆”研修①退院支援「病院から在宅へ」

- 日時 平成30年9月24日（振替休日） 9：15～12：30
- 場所 東部医師会館3階研修室
- ◎ 研修参加者 44名(内多職種研修WG関係者3名)：7グループ
- ◎ 参加ファシリテーター 8名

※9/5, 9/11, 9/20 に事前準備を行い、研修当日最終打合せ後に研修にのぞみました。研修当日参加ができない委員で自身のファオローアップと研修参加のファシリテーターの支援を含め2名の委員（尾坂明紀委員・山本康臣委員）の参加がありました。

※事前準備の中でプレゼンテーションのティーチングを「双方向性講義のためのスキルチェックリスト」を利用して行います。進行ディレクターを山根綾香委員・平井慎哉委員が行いました。



◆地域包括ケアについて・アイスブレイキング

(山本満ファシリテーター：ウエルフェア北園渡辺病院 MSW)



◆ワーク①の進行とプレゼンテーション

(秋田和秀ファシリテーター：東部医師会在宅医療介護連携推進室 介護支援専門員)



◆ワーク②の進行とプレゼンテーション

(研修のディレクター：足立誠司医師：鳥取市立病院)



◆ファシリテーターの自己評価（一部抜粋）

1. ファシリとして良くてきたと思うこと、このままやっいていこうと思うこと

- ・（時間配分や意見交換の内容など）口出ししてしまいそうになったが、活発に意見交換できていたので、焦らずグループメンバーを信じて見守れた事。
- ・グループの参加者の意見をまんべんなく引き出すことができた
- ・話し合いの流れを客観的に見えた事。

2. ファシリとして今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

- ・グループワークを深める促し方、介入の仕方
- ・退院前カンファレンスの役決め（職種）の際に、グループワーク①の流れを汲んでファシリテートできれば良かった。

3. 研修参加者にとって何が・どんなことが一番よかったか

- ・ 普段と違う職種の立場に立って、発言することで多職種の役割を理解できた事。
- ・ 休憩中話したり、名刺交換ができ、顔の見える関係が築けているように思った。
- ・ 他の職種になることでの気づきがあり、他の職種から見た自分を振り返る方もあり、それをグループ内で共有できて良かった。

4. 研修参加者にとって何が・どんなことが良くなかったか

- ・ 一緒に話しを聞いてしまい時間の管理ができなかった
- ・ カンファレンスはスムーズに開催されたが、時間が足りなかったという感がある。

5. 研修までの準備に関する感想

- ・ 回数を重ねる度に、皆さんプレゼンが上手になり、色々な事を理解し、できなかったことが出来るようになり勉強になります。
- ・ 細かい打ち合わせを行うことで、当日も安心してファシリが出来た。
- ・ 絆研修がはじめてだった為、準備に参加することにより、流れがイメージできた。
- ・ マイクロティーチングの勉強が必要だと思いました。

6. その他（感想・意見）

- ・ もっと多くの方がファシリテーターを経験されたら勉強になるのになぁと思います。
- ・ 皆さんが積極的発言して下さったのでやりやすかったです。
- ・ 全体発表の場面で、1~2分間をお願いします。という声掛けをしていないと話が長くなる。

